

◎ 小項目評価

1 住民サービス等質の向上（住民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置）

小項目 区分	法人自己評価	評価者評価		評価者の評価内容
		通常評価	最終評価	
①医療の提供 （地域の実情に応じた医療の提供）【1～2P】	C 概ね計画通り	D 計画を下回って	C 概ね計画通り	令和2年度も引き続き計画通りの医師を確保し、北松中央病院の使命である佐世保北部地域に必要とされる入院・外来機能を維持することができた。一方で、患者数は入院、外来ともに対前年度で大きく減少し、目標を大きく下回っている。この主な要因については、新型コロナウイルスの発生に伴う入院制限や長期処方、患者の受診控えによるものである。また、患者の約1割は松浦市からの受診であることから、令和2年11月から松浦市に開院した松浦中央病院（許可病床数67床（内訳：一般病床47・地域包括ケア病床20）診療科11）の影響についても、今後注視していく必要がある。 患者数は減少したものの診療単価は入院外来ともに上昇している。入院については、新型コロナに関連した患者受け入れにより増加したとみられるほか、外来については職員及び委託業者に対して実施した新型コロナウイルスの検査収入により増加したものと分析されている。なお、指標にはないが、医師の充足率については、79.3％（昨年度76.7％）とほぼ前年度並みの結果であった。令和2年度は患者数などの成果指標が目標を大きく下回りD評価が適当と考えられるものの、これは、新型コロナウイルスに大きな影響を受けたことによるものと見てC評価とする。
②医療の提供 （高度・専門医療）【2～3P】	C 概ね計画通り	D 計画を下回って	C 概ね計画通り	指標にあるMRIやCTなどの検査機器の利用件数については、新型コロナウイルスの影響でいずれも減少した。特に、内視鏡検査は制限を行ったことなどから大きく減少している。また、透析については松浦市から来ていた患者の一部が令和2年11月に開設された「松浦中央病院」に移動したことなどによるものである。高度医療の質の向上のために計画されていた研修や学会への参加については、新型コロナウイルスの影響により、webやリモートにより開催された。 主なものとしては、医師についてはリモートで7つの学会に、また看護師については、153回のネット研修と8回のリモート研修にそれぞれ参加している。本項目でも、検査件数などの成果指標が目標や前年度を大きく下回っており、D評価が適当と判断するものの、これは、主に新型コロナウイルスに大きな影響を受けたことによるものと見てC評価とする。
③医療の提供 （救急医療）【4P】	C 概ね計画通り	D 計画を下回って	C 概ね計画通り	佐世保市消防局管内における救急患者搬送件数については、対前年度比で7.9％減少（R元件14,541件 → R2年度13,393件）している。また、佐世保市立急病診療所の患者数については対前年度比で71.1％も減少（R元14,756件 → R2年度4,259件）している。こうしたことから、北松中央病院の救急患者搬送件数14.4％の減少（R元582件 → R2年度498件）や時間外外来患者数の29.6％の減少（R元1,613件 → R2年度1,136件）については一定の理解ができる結果といえる。また、院内の2次医療完結率については95.8％と目標に達し、昨年度より1.8ポイント増加している。本項目においても、指標では一部を除き大きく目標を下回っており、指標だけ見ればD評価が適当と考えられるものの、これが新型コロナウイルスの影響による受診控えやインフルエンザの流行減少などによる影響が大きいものと考えられることから、C評価とする。
④医療の提供 （生活習慣病（予防）への対応）【5P】	C 概ね計画通り	D 計画を下回って	C 概ね計画通り	健康相談等への住民参加数については、新型コロナの影響で、外来フロアでのイベントを8回から3回に減らして実施された関係で、前年度比で大きく減少し目標も下回った。実施できなかった代わりに、ポスターの展示やパンフレットの配布などにより、外来フロアを訪れた患者やその家族への普及啓発活動を行った。なお、糖尿病患者への対応については、例年通り、各専門スタッフの協力とチームワークにより例年通り実施されている。本項目においても指標が目標に達しておらずD評価が適当と判断するが、コロナ禍の影響によるものとしてC評価とする。
⑤医療の提供 （感染症医療・災害対策）【6～7P】	C 概ね計画通り	D 計画を下回って	B 計画を上回って	感染症指定医療機関として、院内の感染対策を徹底しつつ、新型コロナウイルスの陽性患者を受け入れた。 令和3年1月には、職員6名が断続的に感染したが、委託業者を含む全職員を対象に迅速な検査を行ったことなどにより、院内における感染拡大を防ぐことができた。また、職員については定期的に検査を行うことでウイルスチェックを徹底させたほか、リモートにより全職員に受講を義務付けた院内感染対策研修会を実施したことなどもあり、その他に職員の感染は発生していない。また、指標となっている災害医療への取組状況について、訓練、研修ともに新型コロナウイルスの影響により目標に届いておらず、オンラインで行われた研修への参加1回にとどまった。指標だけ見ればD評価となるところであるが、本項目では、陽性患者の受け入れを行うとともに、外来診療においても発熱患者に対し積極的に新型コロナウイルスの検査を行うなど、その感染拡大の防止に努め、佐世保北部地域等において中核的役割が果たされている。計画にない新興感染症の感染拡大に対し、適切かつ積極的な取り組み姿勢で対応されたこ

				となどからB評価とする。
⑥医療の提供 (リハビリテーションの充実) 【7～8P】	C 概ね計画通り	D 計画を下回って	C 概ね計画通り	リハビリテーションについても、職員が新型コロナウイルスに感染した影響で、ほぼ1 か月は訓練が中止された。その影響もあり、運動器単位数、心大血管疾患単位数といったリハビリの単位数は大きく減少し、目標にも届いていない。また、施設基準の見直しにより、他の項目でのカウントが可能になった摂食機能療法回数が大きく減少する一方で、これが振り替えられた脳血管疾患等単位数や呼吸器疾患単位数については、対前年度より増加し、目標もクリアした。理学療法士や作業療法士については、前年度と変わらず目標数を維持している。指標だけ見ればマイナスが目立つことからD評価であるが、新型コロナウイルスの影響によるとみられることから、C評価とする。
⑦医療の提供 (介護保険サービス) 【8～9P】	B 計画を上回って	B 計画を上回って	B 計画を上回って	新型コロナの影響で制限された活動もあったが、指標となる居宅稼働件数や訪問件数などの指標についてはすべて目標を超え、対前年度でも増加した。また、前年同様に居宅介護支援事業、訪問看護事業ともに利用者の満足度調査が実施された。これは、毎年取り組まれているもので、調査で出された意見を受けて、クレームの即日処理を徹底するなど、職員の活動に反映されている。指標の数値も良好であり全体的に計画を上回って進捗したものとしてB評価とする。
⑧医療水準の向上 (医療スタッフの人材確保) 【9～11P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	スタッフについては、看護師と薬剤師が僅かに目標に達していないが、その他の職種については、概ね目標に達している。前年度と比較しても大きな増減はなく、コロナ禍にありながら貴重な人材の維持確保に努めている。また、引き続き修学資金等の貸し付けも継続されており、看護学生、薬学生1名に奨学資金を貸し付け、病院で不足する職種の確保に努めている。これにより、同制度を利用して確保されたR2 年度末の看護師は10 名となっている。このほか医師事務作業補助者も昨年と同数を維持するなど、多忙な医師の事務作業の負担軽減が図られている。本項目においても、コロナ禍にありながら、貴重な人材の維持確保には努められていることから、C評価とする。
⑨医療水準の向上 (医療スタッフの専門性及び医療技術の向上) 【11～12P】	C 概ね計画通り	D 計画を下回って	C 概ね計画通り	新型コロナウイルス対策の影響で、集合研修がままならない中、リモートによる研修に限ってその受講奨励に努めたものの、ほとんどの職種で研修会への参加者数が減少し目標にも届かなかった。一方で、看護師についてはweb 配信による研修メニューが充実し、いつでも受講できるということもあり、動画配信型講義による研修を推奨した結果、受講者数が大きく伸びている。また、専門資格の主要指標については、ケアマネジャー2 名が、業務の都合などにより資格を更新できなかったため、目標を下回った。内視鏡認定技師については1 名が退職したことなどで減少している。本項目においては、特に医療スタッフの研修会等参加延べ回数でマイナスが目立つことなどから本来ならD評価となるが、その理由が新型コロナウイルスの影響によるとみられることからC評価とする。
⑩医療水準の向上 (医療人材の育成) 【13P】	C 概ね計画通り	D 計画を下回って	C 概ね計画通り	昨年度は67 名の学生を受け入れたが、令和2 年度は計53 名の受け入れに留まった。当初は、栄養科、理学療法科の学生も受け入れる予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大期においては急遽受け入れができなくなったなど、本項目においてもその影響を受けた。受け入れの内容について、佐世保市立看護専門学校生に対しては、基礎看護学実習から夜間実習を含む総合実習まで各学年別に指導されているが、同校生徒の実習後の評価アンケートによると、中～高得点の評価が得られている。前年度比では受け入れの学生数は2 割程度減少しており本来の活動ができなかったことからD評価が妥当と考えられるものの、新型コロナウイルスの影響によることから、C評価とする。
⑪医療水準の向上 (臨床研究の推進・医療の質の向上) 【13～14P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	令和2 年度も引き続き長崎大学を中心とする3 件の臨床研究（共同研究）に参加し、目標とする質の高い医療提供につながる客観的なデータの収集・分析などを通じて、医療の発展に寄与することができた。本項目においても概ね計画通りであったことからC評価とする。
⑫患者サービスの向上 (待ち時間の改善) 【14～15P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	例年通り患者満足度調査が行われた結果、予約時間から会計終了までの時間は昨年度と変わらなかったが、目標より1 分多かった。また、外来待ち時間に関する満足度は昨年度から3.9 ポイント改善し、目標も超えている。これは新型コロナの影響で、外来の患者数が減少し、ゆとりが感じられたことなどもあり満足度が上がったのではないかと考えられる。一方で、一般的には患者減少に伴い待ち時間は減少すると思われるが、外来診療においては電話によるリモート診療も行われていることから、待ち時間自体は通常と変わらない状況とのことであった。 本項目では、待ち時間自体には大きな改善は見られなかったものの、患者満足度は若干好転している。設定された指標に対し新型コロナがどういった影響を及ぼしたかは定かではないものの、引き続き患者の待ち時間対策には取り組まれていることなどから、概ね計画通りとしてC評価とする。
⑬患者サービスの向上 (院内環	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	来院者に、より快適な環境を提供するため患者やその家族の要望を受け、外来診察室前の床工事や車椅子の修繕などが行われた。本項目には目標となる指標は設定されていないが、実施された患者満足度調査の施設環境に関する項目については、5 点満点中4.31 点

境の快適性向上)【15P】				で前年度（4.18点）からわずかに上がっている。 本項目においても、概ね計画通りの事業が行われたことなどからC評価とする。
⑭患者サービスの向上（患者満足度の向上・インフォームド・コンセントの徹底）【16P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	令和2年度も引き続き患者満足度調査を実施し、患者サービスの向上に取り組んだ。その結果、全体の平均点（5点満点）は4.22点となり、前年度（4.13点）からは、0.09点上がったが、あまり大きな変化は見られなかった。内容的には、新型コロナの影響により外来患者数が大きく減少していることなどから「診療待ち時間」に関する不満は減少したものと見られる。一方で、引き続きシャトルバスの運行を行うなど対策は講じられているにも関わらず「駐車場の利便性」に係る不満は増加していることなどから、根本的な原因について再度確認する必要がある。なお、インフォームド・コンセントについては、引き続き患者説明用のアプリケーションを活用するなど計画に沿った運用が図られている。全体的には昨年度とそう大きな変化は見られないことから、計画通り進捗しているとしてC評価とする。
⑮患者サービスの向上（職員の接遇向上）【17P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	患者サービスの向上を目指して、令和元年度に院内に新たに設置された接遇委員会（「思いやり委員会」）は年7回行われ、職員の接遇に関する協議、検討が行われた。 また、令和2年度の患者満足度調査の結果、職員の接遇（患者対応）は、5点満点中4.30点（R元年度：4.18点）で、大きな変化は見られなかった。職員に対する「接遇研修」については、例年、外部から講師を招き開かれていたが、コロナ禍という環境下webにより行われた。本項目においても、概ね計画通り進んだものとしてC評価とする。
⑯患者サービスの向上（医療安全対策の実施）【17～18P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	医療安全管理、院内感染対策、いずれの委員会も昨年同様、目標通り定期的に実施された。 また、医療安全に関する他の医療機関（長崎労災病院、佐世保市総合医療センター）との相互チェックについては、7月に受審したが、コロナ禍でもあったことから参加人数を制限し、かつ時間を短縮して行われている。このほか、院内感染及び医療安全に関する委員会の開催や各種活動など、いずれも計画に沿って行われていることなどからC評価とする。
⑰地域医療機関等との連携（地域医療機関との連携）【18～19P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	本項目には、特に指標等は設定されていないが、紹介率と逆紹介率を参考値として用いている。その結果、紹介率は38.8%（R元年度38.8%）と前年度と変わらなかったが、逆紹介率は60.1%（R元年度60.9%）と、0.8ポイント減少している。これは、詳細な理由は定かではないが、比率計算の分母となる初診患者数（時間外等除く）も、分子となる逆紹介の患者数も減少する中、逆紹介の患者数の減少割合の方が大きかったことによるものである。地域のスタッフに向けた研修会等は新型コロナの影響で開催できず、逆紹介率も若干下がってはいるものの、紹介率については大きな変化は見られないことなどから、概ね計画通りに進捗しているものとしてC評価とする。
⑱地域医療機関等との連携（地域医療への貢献）【19P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	平成30年度から北松中央病院が中心となり取り組んできた地域の病院や施設に努める職員の多職種交流会やその他の研修会については、新型コロナの影響で止む無く中止されたが、新たな取り組みとして近隣の施設を対象に看護サマリーについてのアンケート調査を実施するなど地域との連携強化に努めている。 研修会、研究会については新型コロナの影響という特殊事情で開催できなかったが、地域連携において重要な手段の一つともいえる看護サマリーの充実に向けて取り組むなど、地域連携において必要な役割を果たしていることなどからC評価とする。
⑲市の施策推進における役割（市の保健・医療・福祉行政との連携）【20P】	C 概ね計画通り	D 計画を下回って	C 概ね計画通り	昨年度に続き、中期計画に掲げる3つの健診を実施した。対前年度では企業検診は24名増、がん検診と人間ドックはそれぞれ22名減であった。日本総合検診医学会などの調査によると、がん検診など検診の受診状況に関して、新型コロナの感染拡大期においては、大きく減少している状況が見られることが報告されている。そうした中、北松中央病院ではR3年1月から3月の3か月間は、新型コロナの影響で検診の受け入れを停止した。その結果、職員への受診を必須とする企業の検診においては対前年度で増加しているが、がん検診、人間ドックについては減少した。また、令和2年11月に松浦市で開院した松浦中央病院においても、一部検診を取り扱われているが、その開院時期を考慮すれば令和2年度に及ぼした影響は限定的であったと思われる。 本項目についても新型コロナの影響で、検診を中止した時期があったことなどから、D評価が適当と考えられるものの、特殊事情を除けば概ね計画に沿った予防医療に取り組まれているとしてC評価とする。

2 業務運営の改善及び効率化（業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置）

小項目 区分	法人自己評価	評価者評価		評価者の評価内容
		通常評価	最終評価	
①効率的な業務運営と情報公開【21P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	令和2年度も、「病院運営戦略会議」は計画通り開催され、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ態勢や、働き方改革に関する事項などについて協議された。なお、理事会で決定された病院の重要な事項については、この会議を通して職員全員に周知徹底されている。本項目も概ね計画どおり進んでいるものとしてC評価とする。

②事務部門の専門性の向上【21～22 P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	医事課内の業務については、それぞれの担当者以外でも対応できるよう対策が取られているほか、特に患者と直接触れ合う部署を中心に、職員の専門性の維持向上に努めている。 また、未収金対策としては、年末年始など連休の際にも会計の窓口を開放し、未収金の回収に努めている。 このほか、医師事務作業補助者についても前年度同様の9名を維持し、引き続き「医師事務作業補助体制加算Ⅰ」の基準を満たすとともに医師の事務負担軽減に取り組んだことなどから概ね計画通り進んでいるとしてC評価とする。
③職員満足度の向上【22～23 P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	本項目で特に目標とする指標の設定はないが、職員全体の離職率を見てみると前年度（8.9%）から2.2ポイント減少し、6.7%となっている。また、新人看護師の離職者はなかったものの、看護師全体の離職率も対前年度（7.7%）比で1.6ポイント減少し、6.1%となっている。 全国における同規模病院の看護師の離職率は12.9%（（公）日本看護協会のR元年度実績）となっており、北松中央病院の看護師離職率については、そう高いものとは言えない。 なお、引き続き院内保育所の運営を行っているほか、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定も受けている。この認定は長崎県下で29企業、佐世保市では4企業が受けているが、その中でも北松中央病院は県内トップとなる3回の認定を受け現在実行中である。（令和3年7月末現在、厚生労働省公表の企業のみ）。 以上の通り、職員が働きやすい職場環境づくりに積極的な取り組みを見せているなど、本項目においても概ね計画通りとしてC評価とする。

3 財務内容の改善（財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置）

小項目 区分	法人自己評価	評価者評価		評価者の評価内容
		通常評価	最終評価	
①経営基盤の確立と財務体質の強化【23～25 P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	令和2年度の収支は、対前年度比で増収増益となる1億7,206万円の純利益となった。黒字の主な理由については、入院、外来ともに患者数が大きく減少したものの、新型コロナウイルス患者受け入れのための病床確保に対する補助金が皆増したことなどによるものである。なお、今回の黒字に関しては、収入、支出の両面ともに新型コロナウイルスという特殊な影響を大きく受けたものの、自己資本比率等、評価に当たり本市が参考にしている財務の健全性を示す各数値については、すべて安全値（理想値）を超えている。以上のことから、総合的に見て、引き続き財務上の健全性は保たれていると判断されることなどからC評価とする。
②収益の確保と費用の節減（収益の確保）【25～26 P】	C 概ね計画通り	B 計画を上回って	C 概ね計画通り	令和2年度の収入については、空床確保や長期処方の実施といった新型コロナ対策のための患者制限により、入院で▲5,991人（36,607人→30,616人）、外来で▲3,643人（59,250人→55,607人）と患者数が対前年度で大きく減少した。一方で、新型コロナに関する患者受け入れによる診療報酬などにより、入院の診療単価が1,796円増加（31,867円→33,663円）し、外来の診療単価は新型コロナに関する検査の実施などに伴い1,356円（15,853円→17,209円）増加している。その結果、入院については診療単価の伸びよりも患者数の減少の影響が大きく、対前年度で1億3,593万円の減収となったが、外来については1,768万円の増収であった。このうち外来収益には、委託業者を含む職員に対する新型コロナに関する検査収入約4,200万円が含まれており、これが病院の費用で賄われていることから、これを考慮すれば外来収益においても実質的には対前年度比で減収（単価は上昇）していることになる。 なお、こうした減収への補てん策として、特に空床確保に対する補助金が県から支給されている。そうした新型コロナに関する補助金収益が約6億円あったことなどから、これが入院収益のマイナスを大きく上回り、収入全体で、対前年度4億5,200万円の増収となっている。これにより指標となる経常収支比率は106.5%、営業収支比率は106.3%と、いずれも目標値を超えB評価に値するところであるが、これは新型コロナウイルス対策のための補助金収入の影響が大きかったことなどから、C評価とする。
③収益の確保と費用の節減（費用の節減）【27 P】	C 概ね計画通り	B 計画を上回って	C 概ね計画通り	費用については、対前年度比で総額2億2,167万円増加した。その主な理由については、患者数が減ったことにより材料費は減少したものの、新型コロナに対する職員手当の支給の増などにより給与費が対前年度で1億4,519万円増加。また、職員に対する検査費用の増や感染対策に用いる空気清浄機など備品の購入により経費が5,369万円増加。さらに外来フロアの床の改修や玄関等の屋根の補修工事を実施したことなどで、設備関係費が4,369万円増加したことなどによるものである。なお、臨時の職員手当の支給や感染対策のための備品購入については補助金で賄われているほか、職員の感染に関する検査費用についても同額が収入に計上されているなど、単純に費用のみが増加しているものではない。本項目の指標については、収入が大きく伸びた関係もあり、各比率は軒並みマイナスへと好転している。また、用度係と各出庫先の部署が連携して在庫管理に努めるなど費用節減にも努めている。一方で、後発医薬品の採用率は下がった。これについては提供元となる医薬品会社の倒産があり、一部を先発医薬品に置き換えた影響などによるものと分析されている。指標においては目標に届いていない項目もあるが、概ね良好であることからB評価とすべきであるが、各指数の積算根拠に新型コロナに係る補助金が算入されていることなどから、概ね計画通りとしてC評価とする。

④予算・収支計画・資金計画【30～33P】	C 概ね計画通り	B 計画を上回って	C 概ね計画通り	【予算】 収入は3億9,909万円、支出は1億1,703万円それぞれ決算額が計画額を上回った。収入では空床補てん補助金など新型コロナ対策に充てる補助金が皆増したことで補助金等収益が6億203万円増加。一方で、支出においても、新型コロナの感染対策に要する備品の購入や検査の実施費用、職員手当などが伸びたことなどから、経費で約9,254万円増加したほか、給与費も5,604万円増加している。 【収支計画】 収支計画も予算同様の理由で収入、支出ともそれぞれ実績が計画を上回っている。その結果、収入の伸びが支出の伸びよりも大きかったことなどから、見込みでは718万円であった純利益は、1億7,206万円と、1億6,489万円増額している。 【資金計画】 当初は令和3年度への繰越金を8億3,185万円と見込んでいたが、実際には9億5,136万円と、見込みより1億1,951万円増加した。対前年度比についても、令和元年度末（8億3,704万円）と比較すると、1億1,432万円増加した。 各計画とも、新型コロナウイルス対策のための給与費、経費等の支出の伸びは若干見られたものの、それを上回る収入の伸びがみられた。これは、新型コロナの影響で患者数が大きく減って診療収入が大きく減少したものの、その対策に当たる医療機関に対する補助金収入などにより、最終的には純利益が生じたものである。 以上の通り、純利益の額も大きく増加したことから、本来であればB評価でも問題はないが、増加の理由が新型コロナの補助金にあることから、C評価とする。
-----------------------	-------------	--------------	---------------------------	--

4 その他業務運営に関する重要事項

小項目 区分	法人自己評価	評価者評価		評価者の評価内容
		通常評価	最終評価	
①地域医療構想の実現に向けた取組み【28P】	C 概ね計画通り	D 計画を下回って	C 概ね計画通り	北松中央病院は令和元年9月に、厚生労働省から公立・公的病院の再編・統合に関する具体的対応方針の再検証を求める医療機関としてリストアップされた。これを受け、二次医療圏内で関係機関との協議に着手していたが、新型コロナの感染拡大により、現在その協議は事実上の停止状態にある。一方で同院は、旧江迎町を中心とした合併地域のほか、松浦市、平戸市、佐々町など周辺地域の拠点病院として、特に救急医療の受け皿となるなど、その役割を担っていることも事実である。特に令和2年度においては、感染症指定医療機関として新型コロナウイルスの患者受け入れに当たる一方で、一般の救急患者への対応にも努めており、地域にはなくてはならない医療機関としてその存在感を示した。本項目においては会議が開催されず、構想に向けた動き自体が全国的にもストップしており、令和2年度中は会議等の開催もなかったことからD評価が妥当と判断されるものの、これについては新型コロナウイルスによる影響であることなどからC評価とする。
②働き方改革の推進【28～29P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	平成18年5月に「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定（くるみん）を受け、引き続き職員が働きやすい職場づくりに計画的に取り組むなど、職員の働き方に対する基本的な考え方は先駆的である。 特に勤務医を抱える医療機関にとっては大きな課題といわれる医師の働き方改革については、2024年4月からの勤務時間の上限適用に対応するため、委員会を開催し準備が進められているほか、医師事務作業補助者の雇用により、実際にその負担軽減に取り組まれている。職員が働きやすい環境づくりに努められているほか、医師の働き方改革への準備も進められていることから概ね計画通り進んでいるものとしてC評価とする。
③災害時における事業継続性の強化【29P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	例年行っている院内訓練や佐世保市の災害医療訓練は新型コロナの影響で中止されたが、机上訓練を実施し職員の危機管理に対するモチベーション維持に努めた。災害医療BCP（業務継続計画）については、特段の見直しは行われていないが、内容の確認を行い災害発生時への対応に漏れがないよう努めている。コロナ禍で計画通りの訓練はできなかったものの、新興感染症の発生に対処するため、通常の訓練を越えた対応が適切になされていることなどから、C評価とする。

◎ 大項目評価

※ () 書きは新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しない場合

1 住民サービス等質の向上	2 業務運営の改善及び効率化	3 財務内容の改善	4 その他の重要事項
C 概ね計画通り 【評価者評価 最終 B : 2、C : 17】 (評価者評価 通常 B : 1、C : 9、D : 9)	C 概ね計画通り 【評価者評価 最終 C : 3】 (評価者評価 通常 C : 3)	C 概ね計画通り 【評価者評価 最終 C : 4】 (評価者評価 通常 B : 3、C : 1)	C 概ね計画通り 【評価者評価 最終 C : 3】 (評価者評価 通常 C : 2、D : 1)

1 住民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 大項目評価の結果 C (目標の達成に向けて概ね計画通り進んでいる)

	A (5 点)	B (4 点)	C (3 点)	D (2 点)	E (1 点)	合計
小項目数	0	2 (1)	17 (9)	0 (9)	0	19 項目
点数	0	8 (4)	51 (27)	0 (18)	0	59 点 (49 点)

【平均点】 $59 \text{ 点} \div 19 \text{ 項目} = 3.11 \approx 3 \text{ 点}$ (評価区分 C)
 $(49 \text{ 点} \div 19 \text{ 項目} = 2.58 \approx 3 \text{ 点})$ (評価区分 C))

2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 大項目評価の結果 C (目標の達成に向けて概ね計画通り進んでいる)

	A (5 点)	B (4 点)	C (3 点)	D (2 点)	E (1 点)	合計
小項目数	0	0	3 (3)	0	0	3 項目
点数	0	0	9 (9)	0	0	9 点 (9 点)

【平均点】 $9 \text{ 点} \div 3 \text{ 項目} = 3.00 = 3 \text{ 点}$ (評価区分 C)
 $(9 \text{ 点} \div 3 \text{ 項目} = 3.00 = 3 \text{ 点})$ (評価区分 C))

3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 大項目の評価結果 C (目標の達成に向けて概ね計画通り進んでいる)

	A (5 点)	B (4 点)	C (3 点)	D (2 点)	E (1 点)	合計
小項目数	0	0 (3)	4 (1)	0	0	4 項目
点数	0	0 (12)	12 (3)	0	0	12 点 (15 点)

【平均点】 $12 \text{ 点} \div 4 \text{ 項目} = 3.00 = 3 \text{ 点}$ (評価区分 C)
 $(15 \text{ 点} \div 4 \text{ 項目} = 3.75 \approx 4 \text{ 点})$ (評価区分 B))

4 その他業務運営に関する重要事項 大項目の評価結果 C (目標の達成に向けて概ね計画通り進んでいる)

	A (5 点)	B (4 点)	C (3 点)	D (2 点)	E (1 点)	合計
小項目数	0	0	3 (2)	0 (1)	0	3 項目
点数	0	0	9 (6)	0 (2)	0	9 点 (8 点)

【平均点】 $9 \text{ 点} \div 3 \text{ 項目} = 3.00 = 3 \text{ 点}$ (評価区分 C)
 $(8 \text{ 点} \div 3 \text{ 項目} = 2.67 \approx 3 \text{ 点})$ (評価区分 C))

◎ 全体評価

全体評価の結果 C（目標の達成に向けて概ね計画通り進んでいる）

(単位:点)						
大項目区分	A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	E (1点)	合計
1 住民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	0 (0)	8 (4)	5 1 (2 7)	0 (1 8)	0 (0)	5 9 (4 9)
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	9 (9)
3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	0 (0)	0 (1 2)	1 2 (3)	0 (0)	0 (0)	1 2 (1 5)
4 その他業務運営に関する重要事項	0 (0)	0 (0)	9 (6)	0 (2)	0 (0)	9 (8)
合 計	0 (0)	8 (1 6)	8 1 (4 5)	0 (2 0)	0 (0)	8 9 (8 1)

※（ ）書きは新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しない場合の評価点数

全体評価の結果

【平均点】 8 9 点 ÷ 2 9 項目 = 3 . 0 7 点 ≒ 3 点 (評価区分 C)
(8 1 点 ÷ 2 9 項目 = 2 . 7 9 点 ≒ 3 点 (評価区分 C))

◎ 評価のまとめ

令和2年度の業績においては、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、各項目に掲げられた指標に対する実績が目標を大きく下回る状況が散見された。よって、評価に当たっては、まず同感染症について考慮しない評価を行った上で、同感染症を考慮した最終評価を行った。これについては、同感染症の拡大により患者数などの落ち込みが見られ、地域医療の提供には一部影響を及ぼしたことが考えられるものの、それは法人の努力の範疇を超えた特殊事情によるものであることから、これを考慮した評価を最終評価としたものである。その結果、小項目の評価については記述している通りであるが、大項目区分の「住民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」、「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「その他業務運営に関する重要事項」は、すべてC評価となった。これにより、全体評価についてもC評価となり、北松中央病院の令和2年度の業績評価は中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画通り進んでいるという評価結果であり、適正かつ効率的な業務運営に努めていることが確認された。なお、今回の評価に当たっては、近年例を見ない新興感染症に対峙し感染症指定医療機関として地域の安全・安心を守る役割を果たしたことは特筆すべきことであった。

【特徴的な内容】

- ① 令和2年度の業績においては、様々な場面で新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。特に感染症指定医療機関として必要な感染対策を講じつつ、佐世保県北二次医療圏内でも高齢化などにより顕著な医師不足が見られる圏内北部地域において、内科医8名と外科医1名の常勤医師を引き続き確保し、地域住民への安定した医療の提供に努めた。
- ② 新型コロナの対応に迫われながらも、一般の救急患者の受け入れ態勢を維持し、目標とする救急患者の院内治療の完結率向上にも努めた。訪問看護や居宅介護支援については、利用者アンケートの結果を改善に生かしながら、訪問件数など計画を上回る実績が上げられている。
- ③ 新型コロナウイルス感染症への対応については、佐世保県北二次医療圏の北部地域に1つしかない第2種感染症指定医療機関として、疑いを含む感染患者の受け入れのための病床確保と、その患者受け入れを行った。また、外来診療においても発熱患者に対し積極的に新型コロナウイルスの検査を行い、その感染拡大の防止に努めるなど、地域における中核的役割を果たした。
- ④ 令和2年度の経営においては、新型コロナウイルス感染症の影響で、患者数が大幅に減少し、入院、外来などの医業収益に大きなダメージを受けた。一方で、感染対策のための資材や備品の購入などで支出がかさみ、年度当初は大きな赤字に陥ることが強く懸念された。しかしながら、空床確保に対する補助金をはじめ、新型コロナウイルス対策のための各種補助金などで補てんされた結果、最終的には1.7億円の純利益が生じている。今後、新型コロナが収束する中、減少した患者数が従来の状態に戻るタイミングが見通しにくい、国の助成措置は不透明なことから、それまでは、厳しい経営が続くことも懸念される。また、令和2年11月に松浦市に開院した「松浦中央病院」とは一部、診療等において競合する部分があるため、その動きにも注視しつつ上手く連携していく必要もある。